

平成28年度広島県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
運営協議会（第1回）開催概要

- 1 開催日時 平成28年8月3日（水）15時～17時
- 2 開催場所 広島支部広島職業能力開発促進センター 本館3階多目的ホール
- 3 主な議題
 - (1) 平成27年度事業実施結果について
 - (2) 平成28年度事業進捗状況等について

4 議事経過

資料に沿って事務局から説明が行われた後、意見交換が行われた。各委員からの主な意見等は以下のとおり。

（離職者訓練について）

- ・ 広島県においては、各機関の連携が非常にうまくいっていると思える。特に定員充足率向上のための取組においては、各機関が連携して充足率を向上させるための努力を続けており、こうした取組を今後も続けていただきたい。

（高度技能者養成訓練について）

- ・ 福山市は昔から「ものづくりの街」という素地がある街であり、地元の産業界と行政からの福山短大への期待感も非常に強い。また、事業所から実際に耳にする声としても、福山短大の卒業生に対する期待値が非常に高いと感じる。引き続き時代にフィットした取組みを続けていただきたい。

（職業訓練全般について）

- ・ 現在、自動車産業におけるものづくりのプロセスが大きく変わろうとしており、開発段階からのデジタル化が大々的に進んでいる。中長期的な企業のニーズを踏まえた教育訓練が、職業訓練カリキュラムにおいても更に必要になると思う。
- ・ 受講を希望する者にどういうメニュー、どういうサービスがあるのかというメッセージをどういう形で届けるのが最も効果的であるかが重要であり、各機関が連携して、受講者目線、企業者目線に立ったプロモーションをするのも一策である。職業訓練をわかりやすく伝える取組として、漫画の冊子を活用したのは大変良いアイデアであると思う。
- ・ 在職者訓練においても、労働者の生産性の向上やキャリアプランニングのために生涯にわたって活用可能なツールとして、ジョブ・カードの普及促進に向けた取組を是非とも検討いただきたい。例えば、能力開発セミナーにおいて、修了証の交付時にジョブ・カードの意義や様式を受講者に説明する等の取組をすることにより、ジョブ・

カードの電子化（ジョブ・カード制度総合サイトを活用したジョブ・カード作成）に対する理解が深まると同時に、労働者のキャリアアップのためのモチベーションを高めることができ、非常に有益であると思う。

- ・ 製造業は日本の大事な産業であり、職業能力開発事業は益々その重要性を増している。日本のものづくりや技術を子供や若者、或いは技術を学び直そうという中高年層にも幅広くメッセージを発信し、ものづくりに目を向けさせるような、分かりやすいプロモーションで職業訓練や能力開発に人を集めることができるようにするべきである。
- ・ 当運営協議会は機構の職業能力開発業務に関する議論の場であるが、高齢者や障害者の職業能力開発についての議論や意見交換の場としても今後活用しては如何か。

平成28年度広島県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会委員

- ・ 森川 譚雄 広島修道大学 名誉教授
- ・ 中迫 正一 独立行政法人国立高等専門学校機構 呉工業高等専門学校
機械工学分野教授
- ・ 田原 直樹 中国新聞社 論説委員
- ・ 山崎 幸治 日本労働組合総連合会広島県連合会 事務局長
- ・ 石井 正朗 広島県商工会連合会 専務理事
- ・ 石田 文典 広島県中小企業団体中央会 専務理事
- ・ 植野 実智成 広島県商工会議所連合会 事務局長
- ・ 小川 智弘 福山商工会議所 専務理事
- ・ 藤原 弘文 東友会協同組合 専務理事
- ・ 前田 清志 広島県電気工事工業組合広島支部 事務長
- ・ 佐藤 悦子 広島労働局 職業安定部長
- ・ 高倉 悦子 広島労働局 雇用環境・均等室長
- ・ 井本 昌一郎 広島県商工労働局 職業能力開発課長
- ・ 佐々木 昌彦 広島市経済観光局 雇用推進課長

(順不同、敬称略)